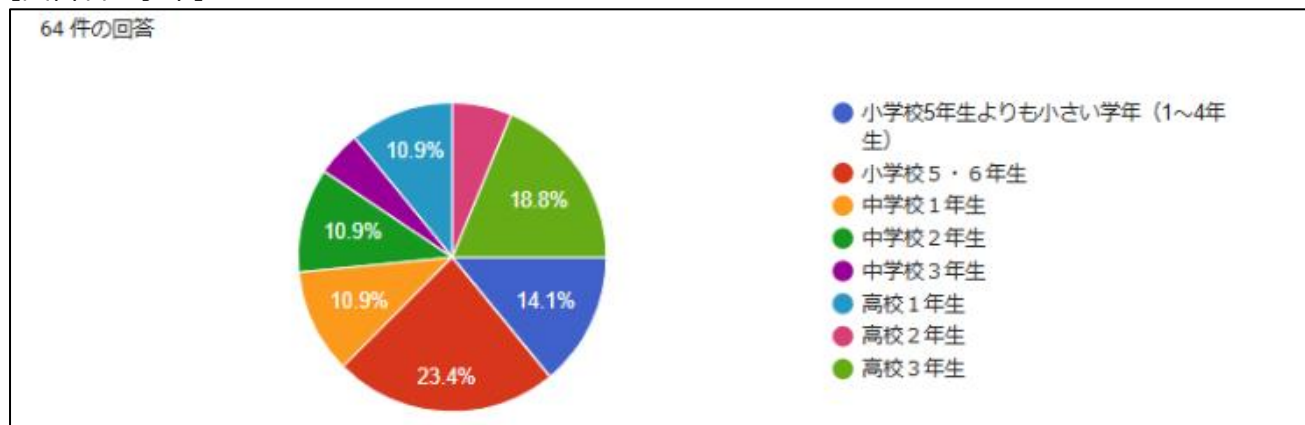


学習指導要領をよりよくするための要望書：子どもの意見アンケート

【回答者の学年】



学年	回答人数	割合
小学校 5 年生よりも小さい学年（1～4 年生）	9	14.0%
小学校 5・6 年生	15	23.4%
中学校 1 年生	7	10.9%
中学校 2 年生	7	10.9%
中学校 3 年生	3	4.6%
高校 1 年生	7	10.9%
高校 2 年生	4	6.2%
高校 3 年生	12	18.7%
	64	

小学生（全学年）：24 人（37.5%）

中学生（全学年）：17 人（26.5%）

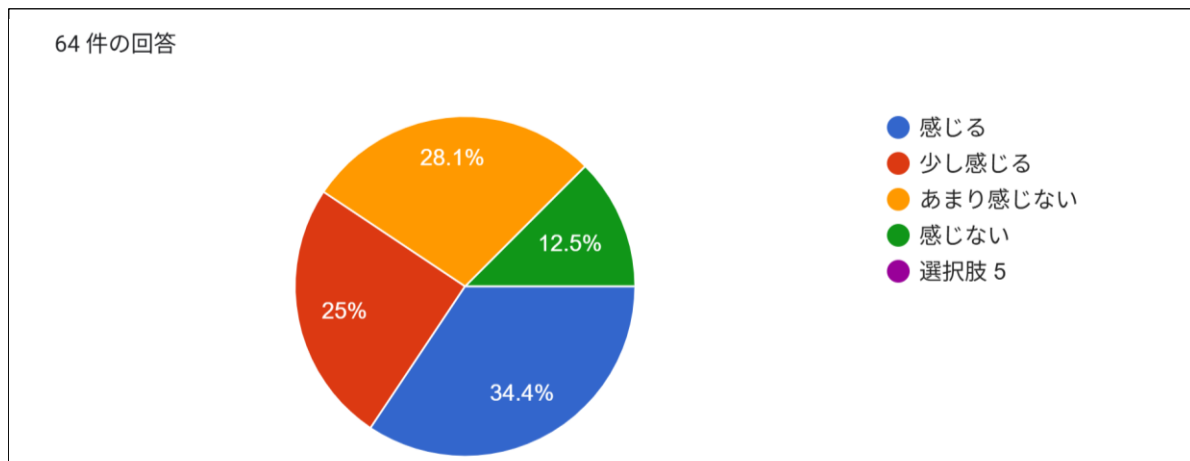
高校生（全学年）：23 人（35.9%）

【回答者の住んでいる都道府県】

都道府県名	人数	割合
千葉県	20	31.2%
東京都	14	21.8%
埼玉県	9	14.0%
京都府	5	7.8%
愛知県	4	6.2%
北海道	2	3.1%
富山県	2	3.1%
宮城県	1	1.5%
神奈川県	1	1.5%
大阪府	1	1.5%
兵庫県	1	1.5%
和歌山県	1	1.5%
未記入	3	4.6%
	64	

① 総則・教育課程（学校全体のこと）についての要望

質問 1 学校で「自分の意見を安心して言える」と感じますか？（選択回答）



質問 2 質問 1 で答えたことについて、どんな時にそう感じますか？（記述回答）

「感じる」
① 発表や話し合いの機会がある
ペアワークの時
授業で発表する時
授業で発表している時
話し合いの機会が多く、その際に感じる
いつでも意見が言える
授業
自分の意見を言ったとき
② 友達や先生が受け止めてくれる
クラスの雰囲気がよく、誰かが発言しても否定的な言葉がでないところ。
意見を否定しないで聞いてもらえる
先生がちゃんと話を聞いてくれる
先生や友達がちゃんと聞いてくれるから
意見を聞いてくれる子が多いから
手を上げて意見を述べたが失敗したなと思っても、嫌な思いをしないから
先生にそうだねって言われた時
③ 安心できる人間関係
友達との会話している時
全て
いつでもそう感じる

「少し感じる」
① 場面によっては言える
好きな先生の授業の時
授業での発表
発表するとき
特になし
何となく
② 一部の人には言える
友達などと安心して相談などができる
自分の意見を認めてくれる人が多いから。
③ 周囲の反応が気になる
先生に話すことは比較的安心してできるけど周りの生徒に意見を言うときなどにためらうことが多い
自分の意見に対していいね！とグループの友達に言ってもらえた時
色々なことを発言しているものの、あまり良く思われない時がたまにある
④ 集団の場が苦手
集会や多数決

「あまり感じない」
① 友達から否定・冷やかされる不安
自分の意見を言って、友達からひやかされたり馬鹿にされたりしたらどうしようなどの不安からそのような気持ちになりました。
発表したときに、周りの児童からそれ違うんじゃないと言われると自信がなくなるから
② 言っても変わらないという諦め
言ってもどうにもならないだろうと勝手に思ってしまう。
学校の考え方が古いから言ってもあまり変わらないそう
学校は右向け右なので自分の考えを伝えづらい
③ 学校の雰囲気・環境
話しにくい空気
先生に言いにくい
部活
校則違反がばれたとき
④ 学校に行きづらさがある
途中からでも行きやすかして欲しい

「感じない」
① 先生への不信感
学校を信用していないから
相手をしてくれる先生少ない。先生忙しそうだ
② 怒られることへの恐怖
怒られたとき
すぐに怒り出す先生がいるので怖い。
③ いじめや安心できない環境
今いじめを受けている。先生に相談してもその話聞いてないと先生に言われたから。親も困ってる。
④ 学校・先生に意見しづらい雰囲気
学校や先生に対して、意見を言いにくい雰囲気がある。(中学校の時)
授業中、手をあげたり当てられた時。あのねルームで話す時
⑤ 授業への不満と無力感
算数はできる子できない子わけて授業を進めてほしい できない子にあわせすぎで授業が退屈

『感じる』『少し感じる』と答えた子どもたちは、授業で発表する機会があることや、先生・友達が否定せずに話を聞いてくれることを理由として挙げていました。一方、『あまり感じない』『感じない』と答えた子どもたちからは、冷やかしいや否定への不安、先生への不信感、怒られることへの恐怖、『言っても変わらない』という諦めの声が多く見られました。子どもたちが安心して意見を言えるかどうかは、制度よりもまず学校や教室の日常的な雰囲気、人間関係、信頼関係に大きく左右されていることがうかがえます。

質問3 学校がもっと安心して学べる場所になるために、ルールや授業のあり方で変えてほしいことがあれば教えてください。（記述回答）

アンケート回答は、大きく5つのテーマに整理することができました。

① 授業・学習方法 -----

一人ひとりに合った学び方や、柔軟な授業を求める声が多く見られました。

主な声

- ・「授業きちきち、それがしんどい。勉強やわらかくして、余白を。」（中学校2年生）
- ・「算数はできる子できない子わけて授業を進めてほしい できない子にあわせすぎで授業が退屈」（小学校5・6年生）
- ・「自由にグループを組んでというのはやめて先生たちが決めてくれた方がありがたいです。」（高校3年生）
- ・「学校に行きたくない時がたまにあるので、リモート授業が選べる様になってほしい。」（小学校1～4年生）

② 校則やルールの見直し -----

子どもたちは、理由の分からないルールや、一方的な校則の見直しを求めています。

主な声

- ・「強制的な校則の廃止」（中学校2年生）
- ・「生徒が納得できないルールはなくすべき」（高校3年生）
- ・「もっと柔軟に考え、ルールを検討してもらいたい。」（高校3年生）
- ・「意味が分からないルールはやめてほしい。」（中学校1年生）

③ 生徒の意見尊重 -----

自分たちの意見を聞き、学校運営や学校生活に反映してほしいという要望が目立ちました。

主な声

- ・「先生と生徒の意見を気軽に共有できる」（高校3年生）
- ・「子供を尊重してほしい」（小学校1～4年生）
- ・「校内に匿名の意見ボックスの設置、定期的なアンケート実施」（高校3年生）
- ・「意見をなかったことにせず、否定だけでなく良いところも探して伝えて欲しい」（高校1年生）
- ・「人の個性、考えを認める」（高校1年生）

④ 先生との関わり -----

先生との信頼関係や相談しやすさを重視する意見が多く寄せられました。

主な声

- ・「相談しやすい生活」（小学校1～4年生）
- ・「一人一人の生徒に寄り添ってほしい」（高校3年生）
- ・「すぐに怒り出す先生がいるので怖い。」（中学校2年生）
- ・「怒鳴らない」（高校1年生）

⑤ 多様な子どもへの配慮 -----

不登校や発達障害、支援を必要とする子どもたちへの理解と配慮を求める声がありました。

主な声

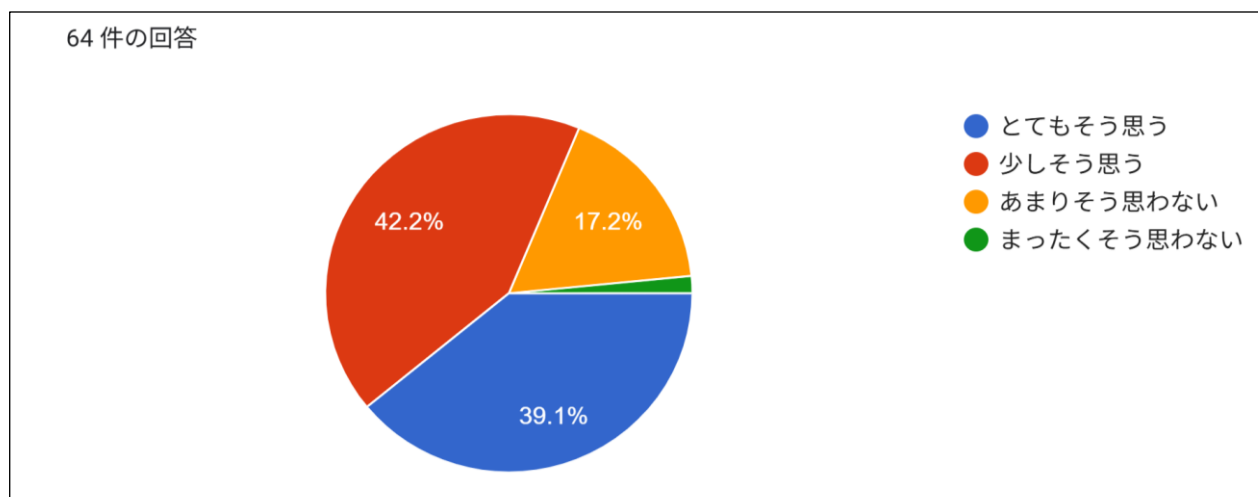
- ・「不登校や発達障害に対する知識をつける授業」（高校3年生）
- ・「支援級の子どもが交流級は行きやすいようにしてほしい」（小学校5・6年生）
- ・「途中からでも行きやすかして欲しい」（中学校2年生）
- ・「休みたいとき、長い休みが必要なとき、安心して休めない」（高校2年生）

まとめ

子どもたちの意見からは、**「意見を尊重されること」「一人ひとりに合った学び」「納得できるルール」「先生との信頼関係」「誰もが安心して参加できる環境」**を求めていることが読み取れました。学校をより良くするために、子どもを学校づくりの主体として位置付けることの重要性が示されています。

質問 4 授業で、学ぶ内容や勉強のしかたを、自分で選べたり、先生と話し合っ

て決めたりできるとよいと思いますか？（選択回答）



質問 5 そう思う理由や、そう思わない理由があれば教えてください。（記述回答）

質問 4 で大半を占めた「とてもそう思う」「少しそう思う」の回答理由を整理すると、主に 5 つのテーマが見られました。

① 一人ひとりに合った学びができる -----

最も多かったのは、自分に合った学び方やペースを選びたいという意見でした。

主な声

- ・「人によって合ったやり方があるから」（高校 1 年生）
- ・「自分に合った学習方法で学んだ方が学力が伸びると思うからです。」（高校 3 年生）
- ・「一人一人の生徒が、興味のある教科をなるべく多くやっただけいいと思うから。」（中学校 3 年生）
- ・「勉強のしかたなどが自分に合っていないと、勉強していても、理解ができないから。」（小学校 5・6 年生）
- ・「自分に合った勉強方法がわかるから」（高校 1 年生）

② 得意・不得意や個性に応じた学習が必要 -----

学力や特性の違いに応じて学び方を選べるようにしたいという意見も多く見られました。

主な声

- ・「書きが得意な人、苦手な人。読みが得意な人、苦手な人など特性に沿って勉強の仕方が選べるとよい」（高校 3 年生）
- ・「得意な人と苦手な人どっちもうれしい」（高校 1 年生）
- ・「基本的な 5 教科は教科書があるが、他の実技は自分の好きなテーマでプレゼン発表ができる。しかし 5 教科でもレベルわけなど対策をして欲しい」（中学校 1 年生）
- ・「もう少し先のことを勉強したいときがある。」（小学校 5・6 年生）

③ 主体的に学べるようになる -----

自分で選んだ方が意欲や理解が高まるという意見が見られました。

主な声

- ・「より理解が深まりそうだから」（中学校 2 年生）
- ・「言われるがままだとやる気も起きないし、思考停止になってるから。」（中学校 3 年生）
- ・「自分の学校ルールは自分たちで決めたい」（小学校 5・6 年生）
- ・「自分で決めれるから」（小学校 1～4 年生）
- ・「話し合いすることも自分で決めることも自由だから考えの幅が広がってとてもいいと思う」（中学校 1 年生）

④ 先生と相談しながら決めたい -----

「全てを子どもだけで決める」のではなく、先生と相談しながら決めることを望む意見もありました。

主な声

- ・「相談できたり柔軟性があつたりすると嬉しい」（高校 2 年生）

- ・「先生の気持ちとこちら側の気持ちを共有できるから」（中学校 1 年生）
- ・「内容がある程度制限されることは卒業後のことなどを考えると妥当だと思う」（高校 1 年生）
- ・「全部自由に決めるのは難しいから。でもある程度自分で選べた方が自分に合った勉強ができる。」（高校 1 年生）

⑤ 慎重・否定的な意見 -----

一方で、すべてを子どもが決めることには不安を感じる意見もありました。

主な声

- ・「義務教育のうちは基本的なことを学ぶことが必要なのではないと思う。」（高校 3 年生）
- ・「学ぶ内容を生徒が決めていたら進まないと思うから」（小学校 5・6 年生）
- ・「自分でできることが苦手な子もいるから全部選択はしなくてよい」（小学校 1～4 年生）
- ・「生徒が絡むとしっかりとした学びを得られなくなる可能性があるためあまり賛成ではない」（高校 3 年生）
- ・「どんな授業をやるかを決めるのにも、おそらく 1 時間使って計画・立案・振り返りなどがあると思うと面倒くさい。」（中学校 1 年生）

まとめ

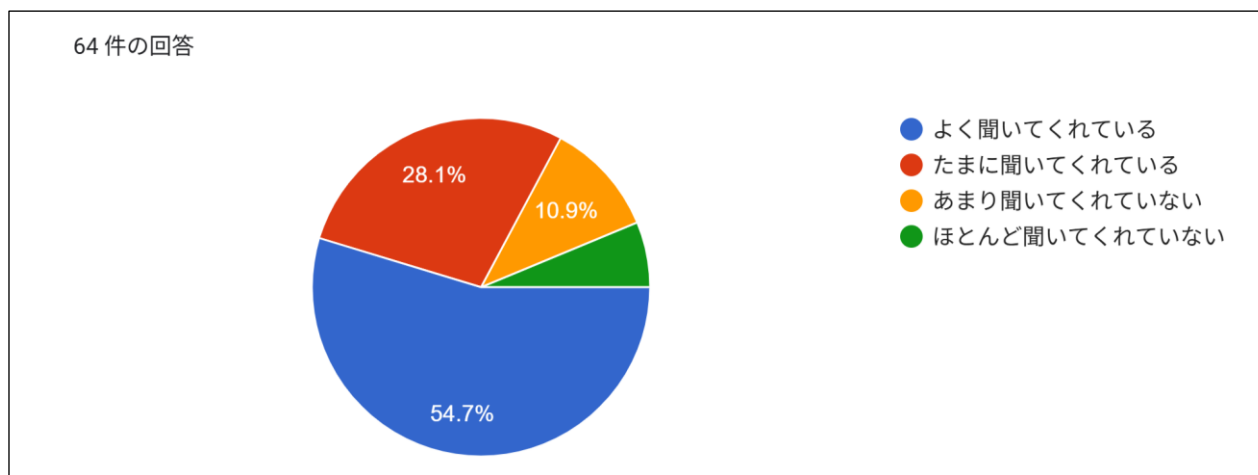
多くの子どもたちは、**「一人ひとりに合った学び方を選びたい」「自分の得意・不得意や興味に応じて学びたい」「先生と相談しながら学びを決めたい」**と考えていました。

一方で、**「すべてを子どもだけで決める必要はない」「基礎的な学習内容は共通で保障してほしい」**という意見もありました。

子どもたちは自由放任を求めているのではなく、**共通に学ぶ内容を大切にしながらも、自分に合った学び方や選択肢を増やしてほしい**と考えていることがうかがえました。

② 教員養成（先生の育て方、先生との関係）についての要望 くわしくは[こちら](#)

質問 6 先生はあなたの話や気持ちを聞いてくれていると感じますか？



質問 7 質問 6 で答えたことについて、印象に残っていることがあれば教えてください。（記述回答）

「よく聞いてくれている」「たまに聞いてくれている」という回答が多く見られました。一方で、「聞いてくれていない」と感じる子どもたちからは、先生との信頼関係や対応への強い不満も寄せられました。

「よく聞いてくれている」-----

困ったときに親身に相談に乗ってくれた

子どもたちが最も印象に残っていたのは、悩みや困りごとに寄り添い、一緒に考えてくれた経験でした。

主な声

- ・「三者面談で受験のことで寄り添ってくださったこと」（高校 3 年生）
- ・「友達関係で困っている時に放課後を使って、話を聞いてくれた。聞くだけではなく解決策なども考えてくれた。」（中学校 1 年生）

- ・「進路イベントへの参加などについて相談した時に、私が質問したことに答えるだけでなくより深いアドバイスをくださったこと」（高校 1 年生）
- ・「担任の先生に出した内容を覚えていてくれて、声かけをしてくれたから。」（中学校 3 年生）

学習面で支えてくれた

勉強や進路について丁寧に対応してくれたことを評価する声も多く見られました。

主な声

- ・「英検のサポートをしてくれた」（高校 3 年生）
- ・「難しい問題を教えてくれる」（中学校 1 年生）
- ・「数学の先生がわからなかった問題をわかりやすく時間をかけて教えてもらったから」（中学校 1 年生）
- ・「勉強の仕方を強制せず、友達同士で意見を出し合えるように授業してくれる先生」（高校 1 年生）

子どもの様子を気にかけてくれた

日常的な見守りや声かけが印象に残っているという回答もありました。

主な声

- ・「私が体調を悪くしていた際、わざわざ連絡をくれた」（高校 1 年生）
- ・「しばらく休んだあと学校に行く時、帰りの時に嫌なことなかったか聞いてくれる」（小学校 5・6 年生）
- ・「休み時間に遊んでくれる」（小学校 1～4 年生）
- ・「水筒を一度こぼしてしまって、周りの人の言葉がささって泣いてしまった時に先生が廊下に呼び出して話を聞いてくれた」（小学校 1～4 年生）

「たまに聞いてくれている」-----

先生によって差がある

話を聞いてくれる先生もいるが、全員ではないという意見が見られました。

主な声

- ・「先生によって違う。実際担任にいじめられた事がある。」（中学校 2 年生）
- ・「他の子もいるから、自分のことばかりとはいかない。」（小学校 1～4 年生）
- ・「先生による」（小学校 1～4 年生）

先生は頑張っているが限界も感じる

現場の先生への理解を示す回答もありました。

主な声

- ・「現場の学校の先生達はルールを変えられる権限はない。上から言われたことを守るだけ。」（中学校 3 年生）
- ・「調子乗ってるやつにははっきり言ってくれる先生」（高校 1 年生）
- ・「問題解決まで一緒に考えてくれた」（小学校 5・6 年生）

「あまり聞いてくれていない」-----

自分の話を受け止めてもらえなかった

特に、相談を真剣に取り合ってもらえなかった経験が強く記憶に残っていました。

主な声

- ・「進路相談で特殊な受験方法を使用するため教員に説明しようとした際、そんな受験方法は無いと突っぱねられた」（高校 3 年生）
- ・「子どもとしか生徒を見ておらず真面目に意見を聞いてくれない」（中学校 2 年生）
- ・「先生の機嫌の悪さが滲み出ている時がある」（高校 1 年生）
- ・「複数担任制のため、誰に言おうか迷ってしまう」（小学校 5・6 年生）

先生が忙しそうで話しかけにくい

主な声

- ・「そもそも忙しそうで、しゃべりかけることすら、ままならない」（中学校 2 年生）
- ・「相手をしてくれる先生少ない。先生忙しそうだ」（中学校 2 年生）

「ほとんど聞いてくれていない」-----

話しても信じてもらえない

深刻な不信感につながる経験が見られました。

主な声

- ・ 「何をやっても怒らない」(小学校 5・6 年生)
- ・ 「確認ばかりされて。記録とってない。言っていない言われてないと言われるから。」(小学校 5・6 年生)
- ・ 「自分から先生に言える子には先生も親身だけど、言えない子は先生から気にしてくれることもない。」(中学校 2 年生)

まとめ

先生に話や気持ちを聞いてもらえていると感じる子どもたちは、

- ・ 困ったときに相談に乗ってもらった経験
- ・ 学習や進路を支えてもらった経験
- ・ 日常的に気にかけてもらった経験を印象に残る出来事として挙げていました。

一方、聞いてもらえていないと感じる子どもたちからは、

- ・ 意見や相談を否定された経験
- ・ いじめやトラブルへの不十分な対応
- ・ 先生の多忙さによる相談のしにくさ
- ・ 先生による対応の差が挙げられました。

子どもたちが求めているのは、「話を聞くこと」そのものではなく、自分の話を真剣に受け止め、一緒に考えてくれる関係性であることがうかがえました。

質問 8 これから先生になる人に「こんな先生になってほしい」と思うことを教えてください。(記述回答)

子どもたちの回答は、大きく 5 つのテーマに分類できました。特に多かったのは、「話を聞いてくれること」「一人ひとりを尊重すること」「公平であること」への期待でした。

① 子どもの話をしっかり聞く先生 -----

最も多かったのは、自分の気持ちや考えを受け止め、対話してくれる先生を求める声でした。

主な声

- ・ 「学生の意見を根気強く聞いて欲しい」(高校 3 年生)
- ・ 「対話を大切に先生」(高校 1 年生)
- ・ 「ちゃんとどうしてそうなったのか理由を聞いてくれる先生」(小学校 1～4 年生)
- ・ 「ほかの生徒などの意見をよく知ってしっかりと考えてくれる人」(中学校 1 年生)
- ・ 「生徒の立場を理解しようとしてほしいです」(中学校 1 年生)
- ・ 「生徒のことも自分の事のように向き合ってくれて先生になって欲しい」(高校 3 年生)

② 一人ひとりに寄り添い、尊重する先生 -----

子どもをひとまとめにせず、それぞれの事情や気持ちを大切にしてほしいという声が多く見られました。

主な声

- ・ 「生徒というレッテルを貼る前に、個々がどのような人物かをしっかりと観察して欲しい」(高校 3 年生)
- ・ 「誰もが仲良くなれる安心できる場所行動をしてほしいです。」(高校 3 年生)
- ・ 「平等に優しく関わってほしい」(高校 3 年生)
- ・ 「一人一人の意見の尊重」(中学校 2 年生)
- ・ 「不登校の子の気持ちや精神的な面、ASD のことなどをしっかり知識をつけて欲しい。もっと寄り添い一人一人を大事にみてほしい。」(中学校 2 年生)
- ・ 「子どもの気持ちを細かく読み取っていただきたく」(小学校 5・6 年生)

③ 公平で、差別やえこひいきをしない先生 -----

先生による対応の差や不公平感を経験した子どもたちからは、公平性を重視する意見が寄せられました。

主な声

- ・ 「公平で話しやすい人」(高校 3 年生)

- ・「平等に話を先生からかけてくる先生になってほしい」（小学校 1～4 年生）
- ・「きちんと話を聞き、公平に物事を考え、判断できる先生。」（高校 3 年生）
- ・「どんな子でも平等に安心して過ごせる居場所にしてほしい。」（中学校 2 年生）
- ・「男女関係なく仕事したい（学校の）」（小学校 5・6 年生）

④ 怒鳴らず、安心して関わる先生 -----

先生の態度や接し方が、子どもたちの安心感に大きく影響していました。

主な声

- ・「何をやっても怒らない」（小学校 5・6 年生）
- ・「あんまり怒らないで下さい」（高校 3 年生）
- ・「優しく良い先生になって欲しい」（小学校 1～4 年生）
- ・「優しいひと。」（中学校 3 年生）
- ・「どなったりしない先生になってほしい」（小学校 5・6 年生）
- ・「優しくて怒る時は怒るとケジメのある先生がいい」（小学校 1～4 年生）

⑤ 相談しやすく、身近な先生 -----

勉強だけでなく、日常生活や進路、悩みについて気軽に相談できる先生を求める声も目立ちました。

主な声

- ・「もっと子供と遊んで欲しい。すぐ教員室に行くのではなく、子供と遊んで欲しい」（中学校 1 年生）
- ・「ノリがいい先生」（小学校 5・6 年生）
- ・「授業が分かりやすく面白い先生」（中学校 1 年生）
- ・「クラスの状況をしっかりみてる」（高校 2 年生）
- ・「まわりのことをちゃんと見てくれる先生になってほしいです。」（中学校 3 年生）
- ・「勉強と学校のルールにしばられすぎず、やわらかくて柔軟で、遊び心ある先生に」（中学校 2 年生）

まとめ

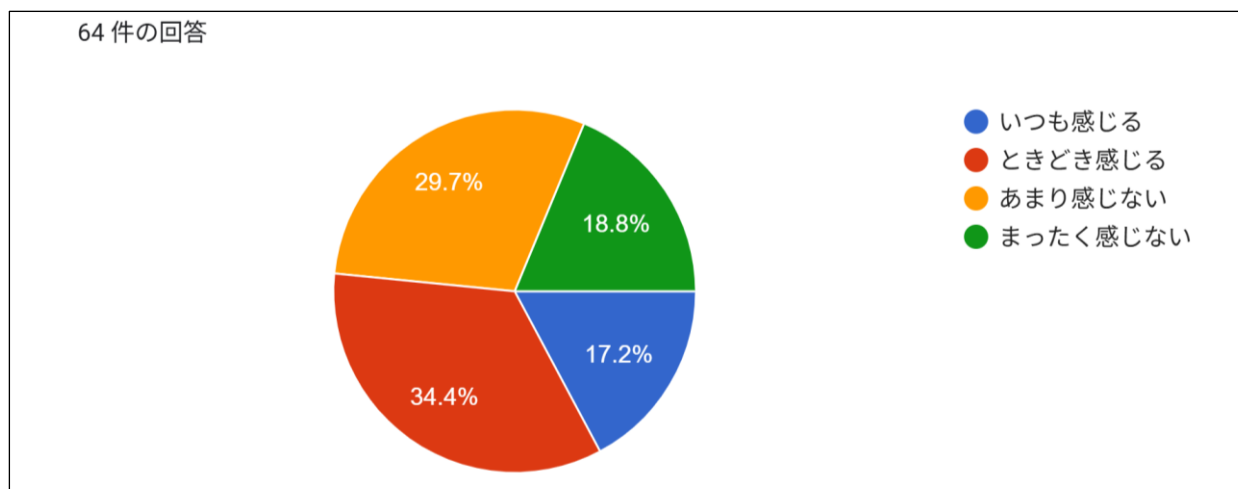
子どもたちが求めている先生像は、厳しさや知識の豊富さ以前に、

- ・ **話を最後まで聞いてくれる先生**
- ・ **一人ひとりを尊重し寄り添う先生**
- ・ **公平に接してくれる先生**
- ・ **怒鳴らず安心感を与えてくれる先生**
- ・ **気軽に相談できる身近な先生** でした。

特に印象的だったのは、「もっと子どもの立場で考えてほしい」「まず話を聞いてほしい」「困っている子にも気づいてほしい」という声が多かったことです。子どもたちは、教える人としてだけでなく、**信頼できる大人としての先生との関係性**を強く求めています。

③ 特別活動（学校生活・参加）についての要望 くわしくは[こちら](#)

質問 9 学校のルールや行事について、自分の意見が活かされていると感じますか？（選択回答）



質問 10 質問 9 でそう感じる理由や、そう感じない理由があれば教えてください。（記述回答）

回答は、「学校運営に参加できている実感があるか」「意見を出しても反映されないと感じているか」によって大きく分かれました。

「いつも感じる」-----

生徒主体で学校運営や行事が行われている

生徒会活動や委員会活動、学校行事を通じて、自分たちが意思決定に参加している実感を持つ回答が多く見られました。

主な声

- ・「うちの学校は基本生徒主体」（高校 3 年生）
- ・「学校の校是が自主自律であるため、すべての学校行事を生徒が運営するから」（高校 1 年生）
- ・「IB だからテストだけでは成績をつけないため、自分のやりたいボランティアがあったらそっちを優先的に見てくれる。」（中学校 1 年生）
- ・「文化祭の実行委員をしていて、その中で重要なことを決定することが多いため。」（高校 1 年生）
- ・「私の学校が特殊で生徒主体の学校であるからだと感じます。」（高校 2 年生）

「ときどき感じる」-----

一部では参加できるが、十分ではない

アンケートや行事、委員会活動などで意見を言う機会はあるものの、常に反映されるわけではないという声が多く見られました。

主な声

- ・「文化祭のテーマを決める時に全校生徒にアンケートをとっているところです。」（高校 3 年生）
- ・「意見を募ったり、一部の生徒を委員会などで運営にかかわれるようにすると思う」（高校 2 年生）
- ・「大まかなルールは先生が決めた方がいいと思う。」（高校 3 年生）
- ・「研修先でやってほしいことや体育の時にやりたいことをたまにやらせてくれる」（小学校 1～4 年生）
- ・「他の人の意見採用もあるから。」（小学校 1～4 年生）
- ・「自分がこうした方がいいといいたい」（小学校 5・6 年生）
- ・「主体性を持って関われば良いと思う」（高校 3 年生）
- ・「学校生活にあまり不満はない」（中学校 2 年生）

「あまり感じない」-----

意見を出しても反映されない

最も多かったのは、「意見を出しても変わらない」「聞かれても実現されない」という回答でした。

主な声

- ・「生徒総会で決まったことが全然実施されない」（高校 3 年生）
- ・「マンモス校のため、意見が多くまとめるのが難しいという事は重々理解しているが、生徒総会で意見を述べられるのは数クラスのうち 1 クラスのみ」（高校 3 年生）
- ・「部活動であまり参加できてないから」（高校 3 年生）
- ・「自分は私服登校しているが学校が無視ばかりしてきて校則が変わる気配すらない」（中学校 2 年生）
- ・「毎年恒例の感じになっている。ルールが古い」（高校 1 年生）
- ・「あんまり意見を言っていない。」（中学校 3 年生）
- ・「意見を言わないからあまり感じない。意見を言うのは面倒と感じる。」（小学校 5・6 年生）
- ・「自分がそういう場にあまり出ていないから、自分の問題でもある」（小学校 1～4 年生）
- ・「特にない」（高校 2 年生）

ルールの理由が説明されない

- ・「タブレットでオセロを休み時間にやっていたらダメと言われ何でダメなのか教えてもらえなかった」（小学校 5・6 年生）

先生主導で決まっている

- ・「先生たちだけで決めていることがあるので（体育祭の種目など）生徒が決めたい」（中学校 3 年生）

「まったく感じない」-----

意見を言う場がない・聞いてもらえない

強い無力感や不信感を示す回答が見られました。

主な声

- ・「ほとんど無視される」(小学校 5・6 年生)
- ・「先生に意見を言える雰囲気ではなかった為。」(高校 3 年生)
- ・「ルールは最初から決まってる」(小学校 5・6 年生)
- ・「人や時によって違うからよく分からない。」(中学校 1 年生)
- ・「人が決めてるものをやっているで自分のアイデアはいらないと感じる」(小学校 1～4 年生)
- ・「わからない」(小学校 1～4 年生)
- ・「先生たちや学校の評判を大事にしているから。いじめ隠すから。」(小学校 5・6 年生)
- ・「意味のない校則だと伝えてもルールだからしょうがないと理不尽なことを言われ決めつけられておしまい。」(中学校 3 年生)
- ・「分からない」(中学校 2 年生)
- ・「経験がないから」(中学校 1 年生)

まとめ

学校のルールや行事について自分の意見が活かされていると感じる子どもたちは、

- ・生徒会活動や委員会活動に参加している
- ・行事の企画や運営に関わっている
- ・アンケートや話し合いを通じて意見を伝えられる といった経験を挙げていました。

一方、活かされていないと感じる子どもたちからは、

- ・「意見を出しても変わらない」
- ・「先生や学校が先に決めている」
- ・「ルールの理由が説明されない」
- ・「意見を言う場や雰囲気がない」 という声が多く寄せられました。

子どもたちは単に意見を聞かれることなく、「自分たちの意見が実際に学校を動かしていると実感できること」を求めていることがうかがえました。

質問 11 学校のルールや行事を決めるとき、子どもがどのように関わるとよいと思いますか？（記述回答）

「子どもの意見を聞いてほしい」という声だけでなく、「意見が実際に反映される仕組みがほしい」「子どもも学校づくりの主体になりたい」という意見が多く寄せられました。

① 意見を聞く機会を増やす -----

最も多かったのは、アンケートや意見箱、話し合いなどを通じて、より多くの子どもの声を集めてほしいという意見でした。

主な声

- ・「校内に匿名の意見ボックスの設置、定期的なアンケート実施」(高校 3 年生)
- ・「アンケートでして欲しいことをきめる」(中学校 2 年生)
- ・「子供たちが意見をいれるボックスがあると良い」(高校 2 年生)
- ・「ご意見箱をおいてほしい、そのかみも全員に配って」(中学校 2 年生)
- ・「全校アンケートを実施する」(高校 1 年生)

② 子どもの意見を学校運営に反映する -----

意見を聞くだけでなく、実際にルールや行事に反映してほしいという声が目立ちました。

主な声

- ・「子供の意見をしっかり聞く」(高校 3 年生)
- ・「子供も一緒に決める」(小学校 5・6 年生)
- ・「子どもの意見も聞いて欲しい」(小学校 1～4 年生)
- ・「必ず子供の意見を入れること」(小学校 1～4 年生)

- ・「なるべく子供の意見を使ってほしい」（小学校 1～4 年生）
- ・「一度生徒の意見を集めてから、良いものは採用し、悪いものはどこがダメなのかをきちんと先生たちから説明する」（高校 1 年生）

③ 子どもと大人と一緒に話し合う -----

すべてを大人が決めるのでも、すべてを子どもが決めるのでもなく、対話しながら決めることを求める意見も多くありました。

主な声

- ・「先生と生徒の意見を気軽に共有できる」（高校 3 年生）
- ・「そのルールや行事が本当に子ども達のためになるかどうか、本人たちの意見に耳を傾けられると良いと思う」（高校 3 年生）
- ・「子供と大人みんなで決められたらいい」（小学校 1～4 年生）
- ・「ある程度先生が決めた上で決定する前に生徒の賛否両論を聞く」（高校 3 年生）
- ・「子どもの意見を聞いてから先生が話したら良いと思います」（小学校 5・6 年生）

④ 子ども主体で決めたい -----

子どもたち自身が学校づくりの主体となり、ルールや行事の決定にもっと大きく関わりたいという意見も見られました。

主な声

- ・「すべて子供が決める」（小学校 5・6 年生）
- ・「子どもが主体で動く教育が必要だと思う」（中学校 2 年生）
- ・「子どもが中心となって考えて、その考えに大人が協力する形」（高校 1 年生）
- ・「初めから大人が何をやるかを決めるのではなく、子どもからやりたいことを集め、実現可能性を検討した上で実行するかを決める」（高校 1 年生）
- ・「基本、子供達の為の学校なのだから大人が話し合いに入らず子供達でまずは話し合ってみるのもいいと思う」（中学校 3 年生）

⑤ 話し合いや代表者を通じて参加する -----

学校全体で意見をまとめたり、代表者を通じて参加する方法を提案する意見もありました。

主な声

- ・「クラス委員を軸とした HR での意見交換の場を用意」（高校 3 年生）
- ・「まず最初に児童の委員を決めて、その委員がクラスの意見をまとめて、全体で話し合う」（小学校 5・6 年生）
- ・「委員会」（小学校 5・6 年生）
- ・「中立な人を立てながら、話し合える場を作る。」（高校 3 年生）
- ・「みんなで決める時間を設けたらいい」（中学校 1 年生）

まとめ

子どもたちは、学校のルールや行事について、

- ・ **意見を言う機会を増やしてほしい**
- ・ **意見を聞くだけでなく反映してほしい**
- ・ **子どもと大人が対話しながら決めてほしい**
- ・ **学校づくりの主体として参加したい**
- ・ **話し合いを通じて合意形成したい** と考えていました。

特に印象的だったのは、単に「自由にさせてほしい」という意見よりも、

「意見を聞いてほしい」

「なぜダメなのか説明してほしい」

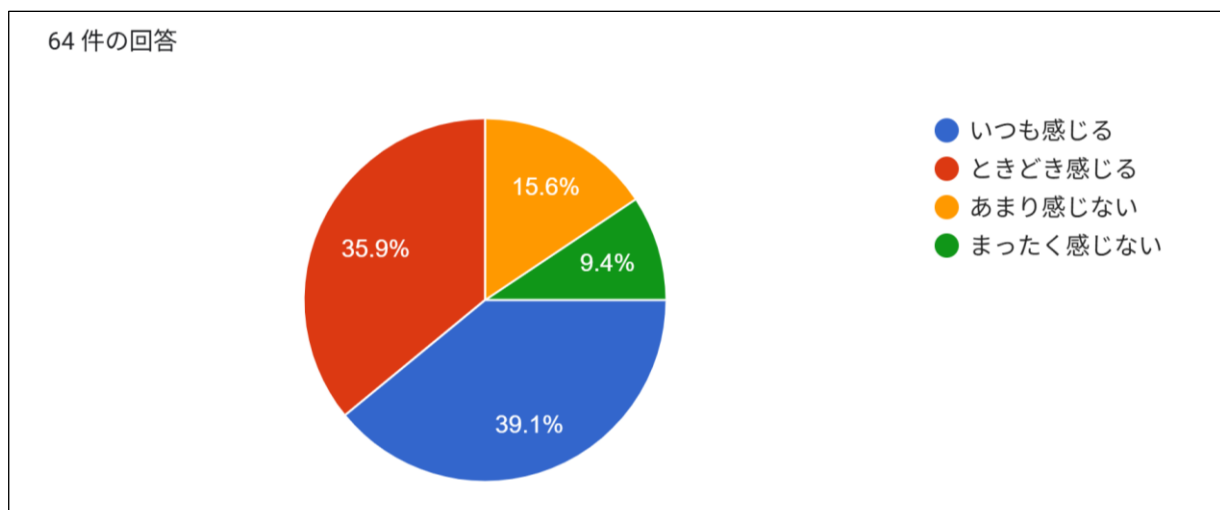
「子どもと一緒に決めたい」

という声が多かったことです。

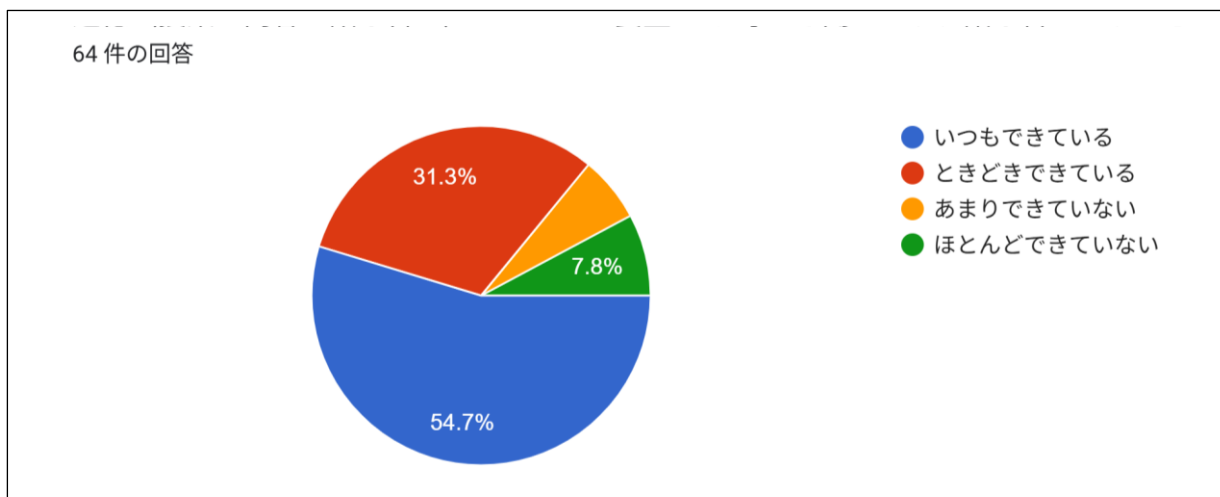
子どもたちは、学校のルールや行事の受け手ではなく、**学校と一緒に作る当事者として関わることを求めている**ことがうかがえました。

④ 道徳（授業の内容・話し合い）についての要望

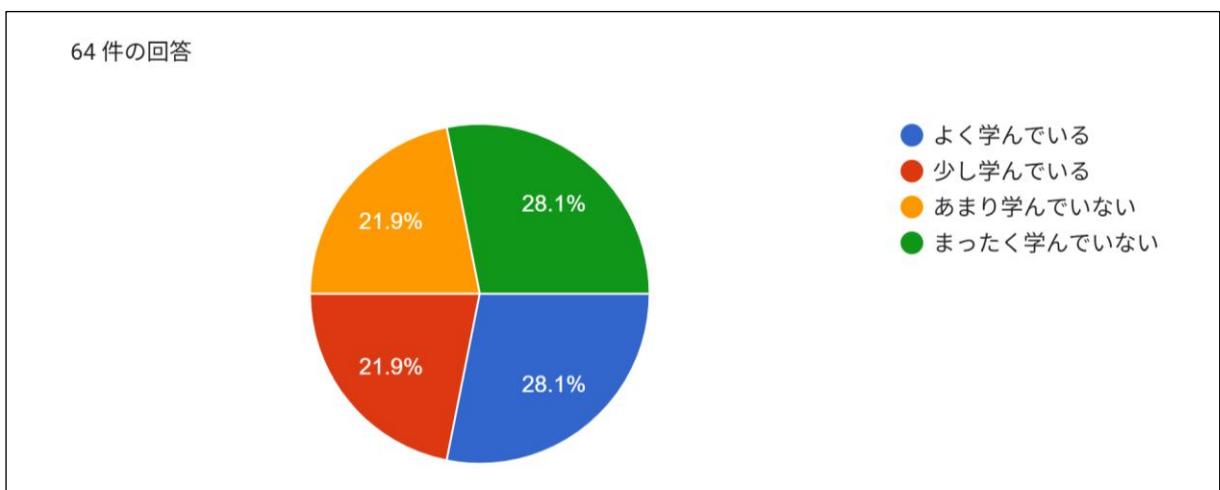
質問 12 道徳の授業では、自分の意見を安心して話せていると感じますか？（選択回答）



質問 13 道徳の授業では、ほかの人の違う考えを聞いたり、話し合ったりできていますか？（選択回答）



質問 14 「子どもの権利」について、学校で学んでいますか？（選択回答）



質問 15 道徳の授業でもっと学びたいと思うことがあれば教えてください。（記述回答）

回答を整理すると、子どもたちが道徳の授業に求めている内容は、大きく 5 つのテーマに分類できました。

① 人との関わり方・コミュニケーション -----

最多は、人との接し方や気持ちの伝え方、多様な考え方を理解することについて学びたいという意見でした。

主な声

- 「人の気持ちのわかり方」(小学校 1～4 年生)
- 「友達との関わり方」(小学校 5・6 年生)
- 「コミュニケーションの取り方について」(高校 1 年生)
- 「正直な気持ちについて考える」(小学校 1～4 年生)
- 「他の人の気持ちについて学びたい。」(小学校 1～4 年生)
- 「自分の考えを言える練習。」(中学校 3 年生)

② いじめ・多様性・他者理解 -----

いじめや偏見、多様な人への理解について学びたいという声も目立ちました。

主な声

- 「いじめ」(高校 3 年生)
- 「どこからいじめ?」(中学校 1 年生)
- 「自己理解をするためのアクティビティなどを行い、能動的に学べる環境があると良いと思う。」(高校 1 年生)
- 「良心を育めるようになれるようになりたい」(高校 3 年生)

③ 命・生き方・人権 -----

命や権利など、より根本的なテーマについて学びたいという意見がありました。

主な声

- 「命の尊さ 親の支え」(中学校 1 年生)
- 「生命誕生、命の勉強(赤ちゃんが産まれる)」(小学校 1～4 年生)
- 「子どもの権利条約について」(高校 1 年生)
- 「AIと生命倫理について」(高校 3 年生)
- 「子どもの権利だけではなく憲法のことも関連付けて授業するべき」(中学校 2 年生)

④ 社会課題・現代的なテーマ -----

道徳を現代社会の課題と結び付けて学びたいという意見も見られました。

主な声

- 「AIと生命倫理について」(高校 3 年生)
- 「SDGs」(小学校 5・6 年生)
- 「公園でのボール遊びについて」(小学校 5・6 年生)
- 「ディベート」(高校 1 年生)

⑤ 道徳の授業そのものへの意見 -----

学びたい内容というより、授業の進め方そのものについての意見もありました。

主な声

- 「あまり、一般的に正しいとされているような答えが考えられる話は取り上げないでほしい」(高校 3 年生)
- 「正解を求められない道徳」(中学校 2 年生)
- 「ない。そもそも道徳って必要?」(中学校 2 年生)
- 「道徳の授業、とは何の意味があるのか」(小学校 5・6 年生)

その他 -----

- 「なし」(中学校 3 年生)
- 「特になし」(複数)
- 「ない」(複数)
- 「わかんない」(小学校 5・6 年生)

まとめ

道徳の授業に対する子どもたちの要望は、単なる善悪の学習ではなく、

- 人との関わり方やコミュニケーション
 - いじめや多様性への理解
 - 命や人権、子どもの権利
 - AI や SDGs など現代社会の課題
 - 正解のない問いについて考える機会
- に集中していました。

特に印象的だったのは、

「正解を求められない道徳」

「自分の考えを言える練習」

「子どもの権利条約について」

といった声です。

子どもたちは、知識を一方的に教わる道徳ではなく、自分自身の考えを深めたり、多様な人と対話したりする学びの場を求めていることがうかがえました。

（最後の質問）学校をもっとよくするために、おとな（先生や文部科学省）に伝えたいことを自由に書いてください。（記述回答）

自由記述を整理すると、子どもたちの意見は大きく 6 つのテーマに分類できました。

① 子どもの意見・権利を尊重してほしい

学校や社会のルールを決める際に、子どもの意見を聞き、反映してほしいという声が多く見られました。

主な声

- 「子どもの権利などについて子ども全員がしっかりと学べる環境を整備して欲しい」（高校 1 年生）
- 「子どもの権利を先生たちも学んで欲しい！」（中学校 1 年生）
- 「子どものことをもっと考えて欲しい」（中学校 2 年生）
- 「もっと自分たちで考えたり決めたりする機会が必要だと思います。」（高校 1 年生）
- 「やっぱり言ってもムダなんだなと思いました。」（小学校 5・6 年生）

② 校則やルールを見直してほしい

納得できない校則や慣例的なルールについて見直しを求める声が寄せられました。

主な声

- 「中学校になると顕著になる理不尽なルールを、改善してもらいたい。」（高校 3 年生）
- 「都立高校受験に必要な内申をなくす。」（中学校 2 年生）
- 「意味のない校則だと伝えてもルールだからしょうがないと理不尽なことを言われる。」（中学校 3 年生）
- 「危険物以外を持ち込み許可する」（小学校 5・6 年生）
- 「給食豪華にしてほしい。ドリル短くしてほしい。」（小学校 5・6 年生）

③ 授業・学習方法を改善してほしい

学び方の工夫や、一人ひとりに合った学習環境を求める意見も多く見られました。

主な声

- 「授業を淡々と進めないでもっと面白く進めて欲しい！」（中学校 1 年生）
- 「プレゼンテーションなどをもっと増やして欲しい！」（中学校 1 年生）
- 「リモートやタブレットの授業をふやしてほしい」（小学校 5・6 年生）
- 「鉛筆、辞書の使い方の時間がすっかり減ったことに危機感を抱いています。」（中学校 3 年生）
- 「本の種類を増やしてほしい。」（小学校 5・6 年生）
- 「もっと色々なジャンルの本を置いてほしい」（小学校 5・6 年生）

④ 先生との関わりをよくしてほしい

先生との信頼関係や接し方に関する意見も多く寄せられました。

主な声

- ・ 「バカみたいに怒鳴らないほうがいい」（中学校 2 年生）
- ・ 「あんまり怒らないで下さい」（高校 3 年生）
- ・ 「勝手に想像して勝手に決めつけるのをやめてほしいです」（小学校 1～4 年生）
- ・ 「悪いことをしている生徒をちゃんと注意してほしい」（小学校 5・6 年生）
- ・ 「生徒によって対応の違う先生が多く見られます。」（高校 3 年生）

⑤ 多様な子どもが安心して過ごせる学校にしてほしい

不登校、いじめ、障害のある子どもなど、誰もが安心して過ごせる学校を求める声がありました。

主な声

- ・ 「どんな子でも平等に安心して過ごせる居場所にしてほしい。」（中学校 2 年生）
- ・ 「トラブルがあった学年教室には定期的に監視を置いて欲しい。」（小学校 5・6 年生）
- ・ 「自由に使える教室がほしい」（高校 1 年生）
- ・ 「せっかくエレベーターがあるのに、車椅子が入りにくい形状のため、直して欲しい」（小学校 5・6 年生）
- ・ 「放課後に図書館があいていたり、ボードゲームができたり過ごす場所があるとよい」（高校 2 年生）

⑥ 先生が子どもと向き合える環境をつくってほしい

先生の多忙さや働き方について心配する声も見られました。

主な声

- ・ 「教師の待遇を見直さないと一生足りないままだぞ！」（高校 3 年生）
- ・ 「先生が忙しすぎて、一緒に遊ぶことも困ったことも言えない。」（中学校 2 年生）
- ・ 「まずは、教育委員会、働き方改革をして。」（中学校 2 年生）
- ・ 「現場の先生達はルールを変えられる権限はない。」（中学校 3 年生）

まとめ

子どもたちからは、校則や授業方法の改善だけでなく、**「子どもの意見を尊重すること」「先生との信頼関係を築くこと」「誰もが安心して過ごせる環境をつくること」**を求める声が多く寄せられました。

また、「もっと意見を聞いてほしい」「理由を説明してほしい」「学校づくりに参加したい」といった意見が目立ち、子どもたちは学校の受け手ではなく、**学校をよりよくするための当事者として関わりたい**と考えていることがうかがえました。

さらに、先生への要望だけでなく、「先生が忙しすぎる」「先生にも余裕が必要」といった声もあり、子どもたちは先生と子どもがともに安心して過ごせる学校を望んでいることが読み取れました。

以上